

令和 8 年 2 月 2 0 日

足立区立西保木間小学校
校長 佐分利 規雄 様

足立区立西保木間小学校 開かれた学校づくり協議会

令和 7 年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

めざす学校像、児童像、教師像が具体的で明確に述べられており、教師は児童や家庭等の実態に応じ、地域の人材や教材等を活用し、チームワークよく指導を行っていることが分かる。

前年度の成果と課題を生かした今年度の計画となっており、その達成度合いを数値の変容を根拠としながら評価している。

成果をさらに伸ばし、課題は工夫をしていきながら解決に向けてすすめていくことを期待する。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

（1）学力向上について

区学力調査において、国語・算数ともに通過率が大きく向上した点は、授業改善に継続的に取り組んできた成果として評価できる。特に、国語における「書くこと」「読むこと」、算数における「図形」など、これまでの課題を明確に捉え、指導内容や方法を具体的に見直した点は適切であり、一定の成果が数値として表れている。

一方で、通過率の向上が「学力の定着」や「思考力・表現力の質的向上」にどこまで結び付いているかについては、今後、より丁寧な検証が求められる。ICTやAIドリルの活用についても、使用頻度の増加にとどまらず、授業のねらいに即した活用や、児童の学びを深める手だてとしての有効性を、教員間で共有・改善していく必要がある。

（2）楽しい学校生活の実現について

「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童の割合が向上していることは、学校全体で児童理解と支援を重視してきた成果といえる。学校行事やたてわり班活動において、児童が主体的に活動している様子も評価できる。

今後も、肯定的な数値の向上に満足することなく、学級や個々の児童の実態に目を向け、支援が十分に行き届いていない場面がないかを常に点検していく姿勢が重要である。楽しい学校生活が、一部の活動や行事に限られることのないよう、日常の授業や学級経営の質をさらに高めていくことが求められる。

（3）体力向上について

体力・運動能力調査において、多くの種目で都平均を上回っている点は評価できるが、50m走や立ち幅跳びなど、基礎的な運動能力に課題が見られる点については、より踏み込んだ指導改善が必要である。

また、「すすんで運動をしている」と回答した児童の割合が減少していることは重く受け止める必要がある。体力向上を数値だけで捉えるのではなく、運動に親しむ意欲や習慣の育成という視点から、体育科指導や外遊びの在り方を再検討することが求められる。

（4）保護者・地域へのメッセージについて

保護者や地域への感謝の姿勢を継続的に発信している点は評価できる。今後は、学校の成果だけでなく課題についても分かりやすく共有し、家庭・地域と課題意識を共有しながら学校づくりを進めていくことが、より一層重要になると考える。

3 その他（学校教育活動全般について）

恵まれた教育環境を生かしつつ、その環境に見合った教育の質をどのように高めていくのかが、今後の重要な視点となる。教育環境の整備への感謝を忘れず、教育活動のさらなる充実を期待する。